

一般社団法人日本行動分析学会アーカイブ 学会賞

論文賞

| 回 | 年 | 受賞論文 |
|-----|-----------|--|
| 第1回 | 2003 | 望月 要・佐藤方哉 (2003). 行動分析学における”パーソナリティ”研究 行動分析学研究, 17(1), 42-54. |
| 第2回 | 2004 | 小田史子 (2004). オペラント条件づけによる子イヌのトイレトレーニング: 家庭における室内トイレトレーニングの介入事例 行動分析学研究, 18(1), 10-24. |
| 第3回 | 2005 | 中野良顯 (2005). 行動倫理学の確立に向けて: EST時代の行動分析の倫理 行動分析学研究, 19(1), 18-51. |
| 第4回 | 2006-2008 | 奥田健次 (2005). 不登校を示した高機能広汎性発達障害児への登校支援のための行動コンサルテーションの効果 行動分析学研究, 20(1), 2-12 |
| 第5回 | 2009-2011 | 丹野貴行・坂上貴之 (2011). 行動分析学における微視-巨視論争の整理 行動分析学研究, 25(2), 109-126 |
| 第6回 | 2012-2014 | 松本啓子・村井佳比子・眞邊一近 (2014). 美容師の指名客数増加のための社会的スキルトレーニングの効果 行動分析学研究, 29(1), 2-18. |
| 第7回 | 2015-2017 | 山岸直基 (2017). 人間における時間間隔をおいた行動の形成-並行スケジュールによる行動の変異と淘汰の制御 行動分析学研究, 32(1), 2-20. |
| 第8回 | 2018-2020 | 松田壮一郎・山本淳一 (2019). 遊び場面における広汎性発達障害幼児のポジティブな社会的行動に対するユーモアを含んだ介入パッケージの効果 行動分析学研究, 33(2), 92-101. |
| 第9回 | 2021-2022 | 山ノ上ゆき子・眞邊一近 (2022). 動物介在活動をめざすオーナー・ハンドラーへのイヌのコントロールスキル訓練 行動分析学研究, 37(1), 68-87. |

実践賞

| 回 | 年 | 受賞者 |
|------|------|---|
| 第1回 | 2003 | 高畑庄蔵(富山大学教育学部附属養護学校) |
| 第2回 | 2004 | 野口幸弘(大野城すばる園) |
| 第3回 | 2005 | 山崎裕司(高知リハビリテーション学院) |
| 第4回 | 2006 | 勿田文記(国立職業リハビリテーションセンター) アニマルファンシィアーズクラブ(代表:佐良直美) 京都市立総合支援学校(全7校)(代表:朝野 浩(西総合支援学校長)) |
| 第5回 | 2007 | 受賞者なし |
| 第6回 | 2008 | 武田建(関西福祉科学大学) |
| 第7回 | 2009 | 藤坂龍司(NPO法人つみきの会) |
| 第8回 | 2010 | 受賞者なし |
| 第9回 | 2011 | 徳島ABA研究会(代表:田中清章(徳島県立阿南支援学校)) |
| 第10回 | 2012 | 飯田美枝子(元小田原養護学校長) |
| 第11回 | 2013 | 受賞者なし |
| 第12回 | 2014 | 鎌倉やよい(愛知県立大学) |
| 第13回 | 2017 | 特定非営利活動法人 ADDS(共同代表:熊 仁美・竹内弓乃) 石黒康夫(逗子市教育委員会) |
| 第14回 | 2020 | 山本央子(京都動物愛護センター) |
| 第15回 | 2022 | 受賞者なし |

注:受賞者の所属は、受賞当時のもの